

「聞く」ことに重点を置いて

白井市立白井第三小学校

報告の流れ

- 1 全校としての成果 児童の変容（全校でのアンケート）、教師の変容
- 2 各学年での取り組み
- 3 全校での取り組み 般化・維持活動
- 4 全校としての課題と次年度に向けての取り組み
- 5 指導案集 1.2年（ピア授業）3.4年（チャレンジプリント）5.6年（総合的な学習の時間）

1 全校としての成果

児童の変容

児童の具体的な変容は、挙げづらい。（一言では難しい）

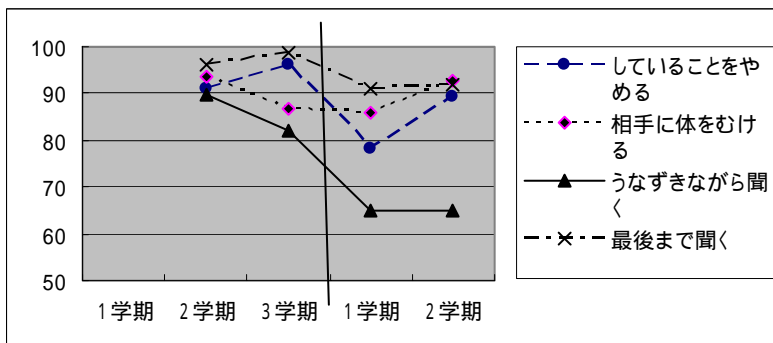
ピア・サポートの授業をすれば、児童がどう変わるのかとよく問われる。しかし、結論付けて明確に言うことは非常に困難である。また、数値として、具体的に成果を知りたいという声もある。その点については、これから述べていく。

ピア・サポートでは、次のことを学ぶようになっている。【あいさつ、話し方、聞き方、感情、問題解決、自己主張】これら全てについて検証することはできないので、【聞き方】について絞って調査研究を行うことにした。

なぜ聞くことに絞ったかという、本校の教育目標に「いつでもどこでも人の話を聞ける子」という項目があること。聞くことは、全学年で取り組めること。学習のしつけとしても、相手を思いやるということにおいても適切なめあてであること。そういった観点から全校での取り組みとした。

「していることをやめる」「相手に体をむける」「うなずきながら聞く」「最後まで聞く」という4項目で2年間の変容をグラフに表したものが、次のものである。

〔1年生～2年生〕

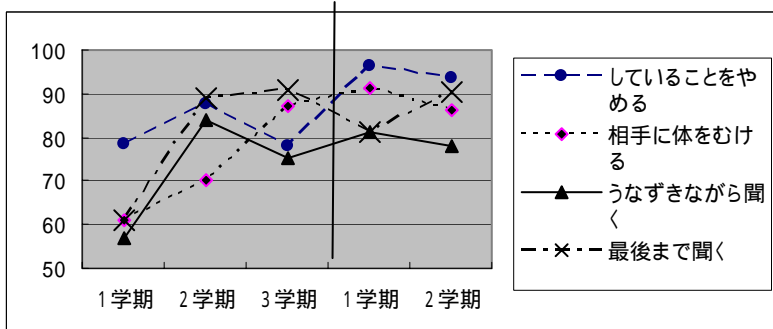


1年生から2年生になる時に大きく数値が下がる。

また、2学期にかけて上がってきている。

ピアの授業はどちらも2学期に行っている。

〔2年生～3年生〕

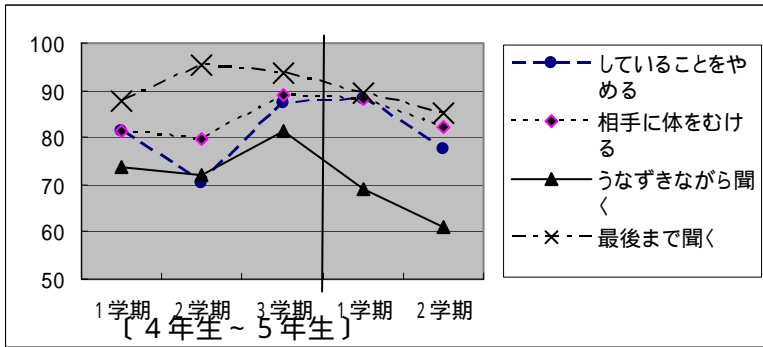


2年生の1学期から2学期にかけて、一番伸びている。

授業は2年生が1学期、3年生が2学期に行っている。

最後の調査では、全体的にほぼ8割以上で安定している傾向にある。

〔3年生～4年生〕



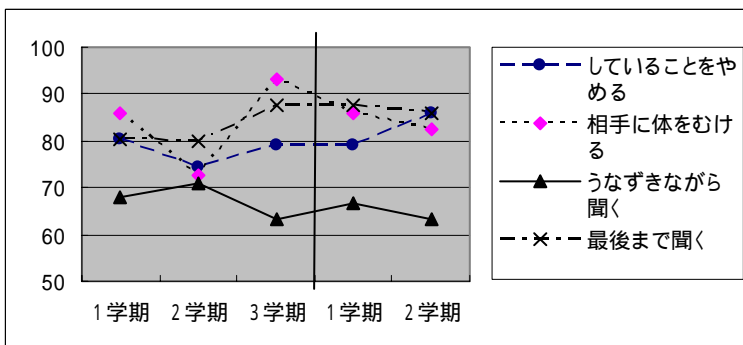
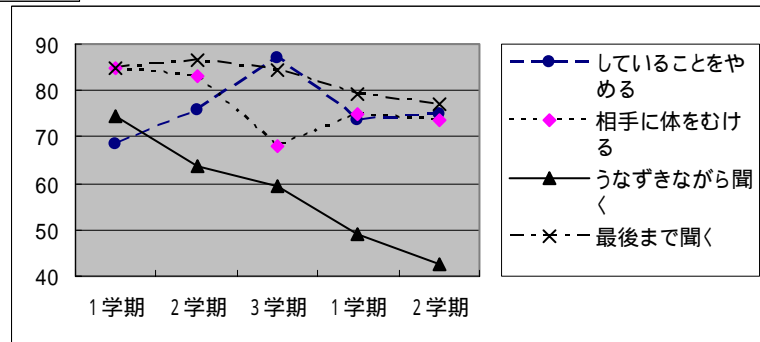
3年生の3学期にもっとも高い数値を出している。その後、ゆるやかに意識は下がっている。その原因はわからないが、3学期の調査の後に考えたい。

授業は3年生が2学期。4年生が1学期に行っている。

うなずきながら聞くという項目だけが大きく右下がりになっている。実際に、観察するなどの調査を3学期に行いたい。

他は安定傾向。

授業は4年生が1学期に、5年生が2学期に行っている。



全体的に大きな変化は見られないが、うなずきながら聞くという項目だけが大きく下回っている。5年生同様に調査が必要。

授業は5年生が2学期に、6年生が1学期に行っている。

上記の結果は、意識調査の結果であり、実際にどのような変化があるのかは、観察していかないとわからない。この結果が成果かと問われたら、違うと考える。なぜなら、児童が学習を進めていくことによって、ピアのスキルをより強く意識し、そうやっていくほどに、自分に厳しい評価をするかもしれないからだ。

教師の変容

ピアの授業を初めて参観した時の本校教員の感想 = 否定的

・台詞が多すぎ・台本で臨機応変に子どもに対応できない。・児童が聞いている時間が長い・テンポが速すぎ・掲示物などの情報が多すぎ・教え込むだけの授業には抵抗がある・こんなことを学校で教えなければならない時代か 等の否定的な捉え方がほとんどであった。

現在では、積極的にピアの授業の準備を行い、全校での取り組みもさかんに = 積極的・肯定的

もともと学習のしつけとして、あいさつの仕方・聞き方・話し方を指導していたことをマニュアル化したわけだが、全校で同じ手法で指導できるようになったことは、大きな利点がある。どの教師が教室に入っても、同じように指導でき、児童もどのように行動すればよいか明確になってきたからだ。授業だけではなく、授業後も児童にスキル習得のために、様々な活動をしている。なぜ教師が変わっていったのかを述べていく。

第1学年の実践

1, ピア・サポート授業前の実態

本学年の児童は、1 クラスに3 4人ほどおり、人数が多い。そのため、学習・生活両場面において「待つ」ということが多くなる。もともと「待つ」ことが苦手な児童が多い上に、待つ時間が長くなるため、その間にもめごとが起きることも少なくない。

また、自分勝手であったり、相手の気持ちを想像することが苦手だったりする児童や、気が短く、友達にすぐ手を出してしまう児童が多い。

そのため、人の話を落ち着いて聞くことが苦手な児童が目立つ。自分が思いついたことをすぐ口に出してしまったり、状況を見て我慢をすることがなかなかできなかつたりしていた。

全体的には元気があり、明るいのだが、そのわりにあいさつは元気がなかったり、自分から進んでできなかったりしていた。教師からあいさつされてからあいさつを返してくる児童が多く、相手の方を見ないで、ただ言葉だけ返してくる児童も多かった。

2, ピア・サポート授業の実践と児童の反応

第1セッション「あいさつじょうずになろう！」

入学後、初めてのピア・サポートの授業だったので、活動や役割をわかりやすくするための工夫をした。赤白帽子を活用し、あいさつをする人、してもらう人をはっきりさせた。列で一人ずつずれながら練習することで、平等に練習できるようにした。あいさつする方を立たせることで、より意識づけを図った。

あいさつをする方だけでなく、してもらう側の気持ちのよさを感じさせることができた。



- ・ たのしかったよ。じょうずになったよ。 をもらえてうれしかったよ。
- ・ げんきがでたよ。
- ・ これからもたのしくあいさつするよ。(授業後のピアっこ新聞より)

第2セッション「もっとあいさつじょうずになろう！」

「ごめんなさい」を教師がモデリングして、あえて元気に言うことで、あいさつは、元気だけでなく「気持ちをこめてすることが大切」ということを意識づけた。

教師のモデリングはとても有効！！



第3セッション「ききじょうずになろう」

「相手に体をむける」というのは、ただ瞬間に体をむけるだけでなく、これから話を聞くことの準備だということ意識づけた。

3人組を作って、2人の練習を他の一人がしっかりと見られるようにした。

ともだちはなしをよくきいてくれると、とってもうれしかったよ。(授業後のピアっこ新聞より)



第3セッション「ききじょうずになろう」

「相手に体をむける」というのは、ただ瞬間に体をむけるだけでなく、これから話を聞くことの準備だということ意識づけた。

3人組を作って、2人の練習を他の一人がしっかりと見られるようにした。

ともだちはなしをよくきいてくれると、とってもうれしかったよ。(授業後のピアっこ新聞より)



第4セッション「もっとききじょうずになろう」
「さいごまできく」を、

あえてできていない劇にして、より意識づけを図った。

話すという活動に抵抗が少しでもなくなるように、準備プリントを用意した。

審査員には、「やったね!」「おいしい」の札を用意して、意欲づけを図った。



意欲がでる楽しい小道具は、必需品です!!

3, ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

- ・ピア・サポートでは、あいさつや話の聞き方のポイントを、簡単なわかりやすい言葉でまとめているため、授業後も振り返りやすい。学習・生活の様々な場面で、「あいさつの仕方はそれでよかったかな?」「話を聞くときはどうするのだったかな?」と聞き返すと、自分でポイントを振り返り、直すことができるようになった。
- ・普段とは違い、教師が二人で授業を行うため、児童の中にも「特別な授業」という意識が働き、授業に対する集中力が高まった。また、教師が劇化を行ったため、ポイントが児童にわかりやすく、授業中に定着しやすかった。
- ・授業の中で友達を評価する場面で、最初は×をつけたり厳しく評価してしまったりすることがあったが、授業を重ねるうちに、「じゃなくて小さい にしようよ。」などと、児童同士で思いやりのある言葉が聞かれるようになってきた。
- ・ピア・サポートの授業直後は、劇的にあいさつや話しの聞き方が変わったが、それを維持するのがなかなか難しかった。また、中には、ピア・サポートの授業中だけでできていればよいと勘違いしている児童もいた。やはり、ピア・サポートの授業だけでなく、その後の般化・維持がとても大切であることを感じた。
- ・朝や帰りのあいさつが、担任だけでなく他の教師に対しても明るく元気よくできるようになってきた。自分からすることは忘れがちだが、意識するようになってきた。

第2学年の実践

1, ピア・サポート授業前の実態

本学年の児童は、1年生の時に、あいさつの仕方や話の聞き方の学習を行っている。十分な定着はなされていないが、教師側が声をかけるとすぐにピア・サポートで学習したポイントを思い出し、行動することができる。特に、話の聞き方については、教師側も意識して声かけをしてきているので、話し始めの集中はできるようになっている。しかし、継続するのはまだ難しいところがある。

話をしたり、相手をお願いしたりするときには、どのように相手に声をかけたり、話をしたりしたらよいかかわからず、トラブルになることもしばしば見られた。

2, ピア・サポート授業の実際と児童の反応

第1セッション

第1セッションは、1年で学習した話の聞き方の復習である。そこで、ポイント ~ の練習の時には、相手に体を向けるをより意識させるために、教師の立ち位置を前面だけでなく、色々な場所に変えて練習を行った。そうすることで、体ごと向きを変えて相手を見るということをも、より理解することができた。

子ども同士の練習場面では、2人組の練習を3人組にして行った。話し手が話をしながら相手の聞き方を評価するのは、まだ難しいと考え、話し手は話すことに専念させ、審査員をもうけて評価を行った。それぞれが自分の役割に集中することができ、評価する時にもよかったところやアドバイスを具体的に相手に返すことができ効果的であった。



どれどれ、聞き上手になっているかな。あ、ちゃんとうなずいてる！

第2セッション

話の聞き方の例示を行う場面では、T・T担当ではなく、担任が行うように工夫した。子どもにとって身近な担任が、多少オーバーに演示することで、子どもは意見が言いやすく、ポイントを意識することができた。

「質問をする」というポイントの例として使用したフラッシュカードの内容は、後日国語で「話す・聞く」学習の際に活かすことができた。

あいづちとかしつもんとかして、話している人がうれしい気持ちになると、聞いている人もうれしい気持ちになるね。

授業後のピアっこ新聞より

第3セッション

話し上手になるポイントを知り、練習をするセッションであったが、当日話がしやすいように前もって話す内容を書いておくようにした。その際、「好きな勉強」「好きな動物」の2つの課題にした。なぜ好きなのかその理由も話しやすく聞き手は興味を持って聞くことができ、うなずいたりあいづちを打ったりする練習も同時に行うことができた。



がもらえ
るかなあ。

友だち同士で認め合うことは、とても励みになります。

第4セッション

お願いの仕方のよくない例を、台本にあった「借りるよ。」ではなく「貸して。」に代えて行った。普段子ども達のお願いをする場面を見ると、「貸して。」という言い方をしていることが多かったからである。子ども達は、日常的に使っていた「貸して。」という言い方は、相手の気持ちを聞いてあげていないため、正しいお願いの仕方ではないということに気付いて、新鮮な驚きだったようである。

3、ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

- ・朝の会でスピーチを行っている。その際に話の聞き方と質問に重点を置いて指導してきたので、自然にうなずいたり相手を見て最後まで聞けるようになったりしている。また質問の内容については、ピア・サポート第2セッションで使った例や国語の「たからものを知らせ合おう・きき方名人になろう」で使った例を時々振り返るようにした。始めはなかなか質問が思い浮かばない児童が多かったが、今では質問をすることに慣れてきている。
- ・第4セッションのお願いの仕方（例えば、「どいてくれる？」「～をとってくれる？」）を日常生活の中でうまく使えている場面を取り上げ、賞賛し広げるように指導してきた。少しずつではあるが、使える児童が増えてきている。
- ・トラブルがあったときにお願いの仕方を使うことを話すと、納得してどうすればよかったのかを振り返ることができた。
- ・子どもたちの中から「最後まで聞かなくちゃ。」「『～して』じゃなくて『～してくれる？』って言うんだよ。」などお互いに声を掛け合う姿が少しずつ見られるようになってきた。
- ・あいさつは1年生から取り組んでいるが、「自分からする」ということが忘れやすい。そこでピア・サポートの挨拶上手のポイントを復習し期間を決めて意図的に声を掛けると、意識して自分から挨拶をする児童が増えた。

第3学年の実践

1, ピア・サポート授業前の実態

本学年の児童は、気持ちを言葉で表すことが苦手な児童が多いと日々感じている。些細なことで、けんかになり相手を傷つける言葉を言ってしまうたり、手が出てしまったりする児童が数名いる。また自分の気持ちを伝えられないことから、コミュニケーションが上手にとれず、トラブルになることも多い。友だちに何かをしてもらった時も、ありがとうという気持ちをすぐに言葉にして伝えることができる児童は少ない。4月からは、帰りの会で「ありがとう」と伝えるコーナーを作り、友達の良さを認めたりその場で伝えられなかった気持ちを伝えたりする場を設けてきた。

2, ピア・サポート授業の実際と児童の反応

第1セッション

シナリオ通りに進めた。授業後、気持ちを表す言葉を書いた掲示物を教室前面や廊下に掲示することによって、般化・維持されたように思う。日常の会話に時折出ていた“ウザイ”“死ぬ”“消える”という言葉が、相手に気持ちを伝える言葉でないことをはっきりわかせることができた。

(子供の感想)

- ・気持ちを表す言葉をいっぱい覚えられてよかった。
- ・「大好き」や「感謝」が気持ちを表す言葉だということを知った。



第2セッション

シナリオ通りに進めた。子供達にとっては、教師の演技が面白かったらしくちょっと本筋から外れそうになった。正直に言って、ねらいにそって進めるのがやりづらかった。また、演技をする人、授業を進める人で最低2人はいないとできないのは難点だった。授業後は、体の変化(主に表情)を見て、相手の気持ちを察しようとするようにはなった。

(子供の感想)

- ・悲しかったり、うれしかったりすると体にも変化が起きてすごいな。
- ・今日帰ったら、家族を観察して、どんな気持ちかかんがえてみたい。



第3セッション

ほぼシナリオ通り進めた。子供に演技をさせて、気持ちを読み取る活動をしたが、なかなかうまくいかず、それが「体の変化だけでは気持ちはわからない」ということを実感させられてよかった。

(子供の感想)

- ・身振りだけで気持ちを表すのがこんなに難しいとは思わなかった。
- ・気持ちは本人にはかわからないから、気持ちを表す言葉をみんなに使ってほしいと思った。



第4セッション

シナリオ通り進めた。ビデオ教材があり、とてもやりやすかった。子供達も、本時の学習のポイントをしっかり理解し、活動することができた。



(子供の感想)

- ・わかりやすく言うと、誤解されないでいやな気持ちにならないですむということがわかりました。
- ・気持ちを表す言葉を使えば、相手の人に気持ちがちゃんと伝わっていいことがわかりました。

3, ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

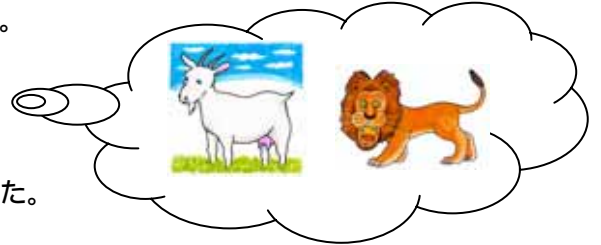
- ・ 授業や日常生活の中で、前年度学習した聞き方のポイントを繰り返し指導することにより子どもたちがポイントを覚え、話を聞く姿勢にスムーズになれた。
- ・ トラブルの後、今までは、「ごめんね。」「いいよ。」というパターン化された応答であった。しかし、学習後は『ピアでやったこと』を思い出させ、自分の気持ちをフィードバックさせて言わせたり、相手の気持ちを考えさせたりすることができた。自分の気持ちを相手にしっかりと伝えることで、話し合いの後お互いがすっきりとした気持ちになり、あとあとまでいやな気持ちを引きずらなくなった。
- ・ 第4セッション後、チャレンジプリントを使って、家や学校で『ありがとう』を言った・言えばよかった』という場面を見つけさせる活動を行った。その中で、してもらった時だけでなく、「上手だね・がんばったね」などの言葉かけでも『ありがとう』を言う場面があることに気づかせたり、練習させたりする時間を設けた。
その結果、『ありがとう』という言葉は、その場ですぐに伝えた方がよい事・また、『ありがとう』という言葉かけは、相手も自分もいい気持ちになることが確認できた。日常の会話に時折出ていた“ウザイ”“死ね”“消えろ”という言葉が、相手に気持ちを伝える言葉でないことがわかり、使われなくなってきた。

第4学年の実践

1. ピア・サポート授業前の実態

本学年の児童は、おおむね人に対して友好的な態度で接していた。しかしながら、互いの感情を出し合っていたかという点、そうでもない。付和雷同型、強い相手に黙って合わせている児童も多く見られた。

また、もめ事の多い児童は、感じたことをストレートに言葉にして相手を傷つけてしまったり、自分の思いを上手に表せずに話をこじらせてしまったりしていた。



2. ピア・サポート授業の実際と児童の反応

第1セッション

授業内容が盛りだくさんだったので、60分でもきつかった。

【授業の工夫】

- ・ 掲示物の工夫・・・ピア男くんの感情語〔10個〕を黒板に書くのではなく、カードに書いておいて黒板に貼るようにした。
- ・ 時間短縮のために・・・感情のサインを見つける際、グループ活動では時間がかかるので隣同士の活動にした。

【児童の反応】

- ・ 3年生では「気持ち」という言葉が4年生では「感情」になり、「感情語」の意味が児童はつかみにくかったようである。

第2セッション

第2セッション「感情ってふくざつ」での複数の感情が同時に起こることがあるという例えで、子どもにわかりやすい話がなかなかなかった。

【授業の工夫】

- ・ 時間短縮のために・・・「プリントA おもて」の変更
第3場面のみプリントにのせ、感情を考えるようにした。

ぴあぴあ新聞より

・ ふくざつというのは、うれしいや悲しいを組み合わせたものとわかりました。
・ 自分の感情だけじゃなく、相手の感情もあることを思って、もっと友達のことをわかっていきたいです。

・ 自分が楽しくても人は悲しい・・・そういう風に人それぞれ何かされた時の感情は違うんだなと思いました。これから、この勉強を生かしていきたいです。

第3セッション

【授業の工夫】

- ・ 掲示物の工夫・・・授業をしながら、黒板掲示要旨の要点に色線を付けた。
- ・ 活動補助・・・「怒る人」の台詞を黒板に掲示した。プリントを見るより分かりやすくなった。また、P8の活動（台詞に朱線を引く活動）はカットした。
- ・ 時間短縮のために・・・役割は、自分たちで相談させない。班の代表者に役割カードを伏せて配らせ、運で決定する。
- ・ 評価のために・・・活動する児童（落ち着かせる役）は、起立して言わせる。



【児童の反応】

- ・ 意欲的に活動していた。
- ・ 活動時間が予定より長くなった。原因は、落ち着かせるためにゆっくり10まで数を数えたり、深呼吸したりする時間がかかったことである。
- ・ 授業後の感想プリントには、授業を受けて良かった旨の感想が多数綴られていた。

どうしたの？話聞くよ。
一緒に深呼吸しようよ。



あー！
いらいらするなあ！

ぴあぴあ新聞より

- ・ もし人が怒っていたら、優しく声をかけてあげると、いい気持ちになることを初めて知りました。
- ・ 人が怒ったら、けんかをしていただけ、けんかじゃなくて、落ち着かせてあげると気持ちよくなると思いました。
- ・ 今まで、怒っている人がいても、どうすることもできませんでした。これからは、学んだことを生かしたいです。
- ・ 相手が落ち着いてくれると、自分もすっきりしました。
- ・ 怒っている人がそっぽを向いても、自分は相手の方を見て話しました。
- ・ 自分は感情が強くなりすぎることが良くあります。他の人に迷惑になるので、これからは落ち着きたいです。
- ・ 普段の生活でも、人に役立つことをして、人を支えたいです。優しい人になりたいです。



第4セッション



【授業の工夫】

- ・ ビデオ・・・・・・・・・・悪いパターンと良いパターンを続けて見せず、一度切った。それぞれのパターンごとにどうだったかをまとめた。理由は、ビデオの台詞が長く、一度に流すと混乱すると思ったからである。
- ・ 手書き文字で温かく・・・4年生のまとめとして渡されるフクロウ先生からの手紙の文字を手書きにした。

【授業の実際】

- ・ ビデオの台詞が長すぎた。また、学習内容に比べ、脚色が多かったため、分かりにくかった。

【児童の反応】

- ・ 演技でも、本当に気持ちがすっきりしたという感想が多かった。感情を伝える側も、伝えられる側も、両方がすっきりすることに気付いていた。

3. ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

- ・ 友達同士のもめ事を担任が仲裁する際、解決方法として学習を活用させ、有効な手だてとなっている。
- ・ まだまだ、感情語の数は乏しく、自分の感情を「いやだ」という言葉でしか表現できない。
- ・ 学習以前には、感情をうまく伝えられなかった児童も、少しずつ相手に伝えられるようになってきた。
- ・ バトンタッチの言葉があるので、途中で口を挟まず、相手の気持ちを最後まで聞くようになってきた。
- ・ 自分の感情を相手に伝えられたことで安心感を持ち、相手の話を落ち着いて聞けるようになり、友達同士のコミュニケーションがうまくとれるようになってきた児童がいる。

第5学年の実践

1. ピア・サポート授業前の実態

本学年の児童は、外遊びも活発で元気がありのびのびしている。自分の興味のある学習に対しては、熱心に取り組むが、じっくりと落ち着いて問題を読んだり、話を最後まで聞いたりすることが苦手な児童が見られた。また、一部の児童には、相手の気持ちを考えた言動ができず問題が多々起きていた。友だちとトラブルが生じた場合など、乱暴な言動で自分の思いを通そうとすることがあり、話し合っ解決する場面は少なかった。

2. ピア・サポート授業の実際と児童の反応

第1セッション テーマ『ちょっと待って。その先を考えよう。』

5年生の初めての学習であり、内容が盛りだくさんで新しいことばかりであったので、児童が理解できるか不安だったが、比較的集中して取り組んでいた。しかし、本セッションでは聞き方の面が十分に身に付いていないように思われた。

台本にある例文などを児童の実際の生活に則して考えさせることで理解がスムーズに行えた。予告プリントにあったように5年生の内容『問題解決の仕方』は、時間をかけてじっくりと取り組むと、次々と考えが浮かび様々な結果を予想することができた。

(児童の感想)

- ・今まではじっくり考えないで行動していたので、これからはじっくり考えて行動しようと思う。
- ・友だちの考えを聞いて自分の考えが変わった。
- ・相手の立場を考えて行動しなければいけないことに気付いた。

第2セッション テーマ『考えよう。解決方法はもっとある！』

本セッションのテーマは「2つ以上の解決方法を見つけよう」という内容であった。ここでは「自分の立場だけ」とか「友だちの立場だけ」など、児童の考えをわかりやすくまとめる板書の工夫をした。

児童が出した解決方法を教師が演じたり、ペープサートを活用したりすることで、どのような場面かイメージしやすくした。

(児童の感想)

- ・みんなの願いを少しでもかなう解決方法を考えるのは難しかったが、友だちと相談しながら活動ができた。
- ・一人では思いつかなかったことも、みんなの意見が重なり合っ良い考えがうまれてよかった。
- ・×を最初からつけないことを新しく学んだ。

第3セッション テーマ『問題はどこだ！？』

教師の説明が長くなってしまっ場面があったので、それに伴っ児童の集中力も持続しない様子が見られた。

実際に問題文を作る場面では、ヒントカードを頼りにしている児童は少なく、自分の言葉で考えることができた。

(児童の感想)

- ・それぞれの立場で問題になっていることを書き出せば、問題文を作れるということが分かった。
- ・今まで困っていることを考えて、言葉にすることはしなかったので、これからは生活の中で使っいきたいと思った。
- ・普段の生活でこういう場面になった時、この方法を使っ解決していいと思った。

第4セッション テーマ『じっくりちょう戦！』

学習プリントの記入を明確にするために、拡大した掲示物を用意したので、詳しく説明することができた。(ステップごとの色分け、時間配分など)

児童がこれまで学習してきたことをすべて使っチャレンジする時間だったので、活動時間を十分にとった。そのため子供は楽しんで活動することができた。

(児童の感想)

- ・友だちと話し合うことで、いろいろな解決方法が出てくることが分かった。
みんなの発表を聞いて、良い解決方法がいっぱい出てきてびっくりした。
- ・今までに習ったことを自分で実際にやってみて、いろいろなことを考え出して書くことが楽しかった。
- ・むずかしい内容だったけれど、普段の生活でもこうした問題解決をしていきたいと思った。



3 . ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

- ・総合的な学習の時間の「世界の食めぐりをしよう」では、グループで発表方法を話し合う活動では、ピア・サポート学習で学んだ4つの解決方法を活用して実施した。その結果、相手に分かりやすい発表方法を考え出すことができた。
- ・生徒指導の場面でも、友だちとトラブルが生じた場合、「問題になっていることは何か」「解決方法をたくさん出す」などお互いが気持ちよく生活できる方法を自分なりに考える児童が増えてきた。
- ・ピア・サポートの学習の中で xを初めからつけないことを学んだので、発表の際に友だちの様々な意見を否定することが少なくなった。
- ・「返事をする」「していることをやめる」「相手に体を向ける」など、聞き方のポイントを意識して友だちの発表を聞くようになってきた。



第6学年の実践

1, ピア・サポート授業前の実態

4年生で感情について学び、5年生で問題解決を学んでいる。

ピア・サポートの授業自体は好きで、授業に対する姿勢もよい。しかし、実際に学んできたことが生活に生かされているとは言い切れない。ただ、問題解決のステップは思い出させると、活用しようとする場面も見られ、教師の言葉かけが重要だと感じる。

聞き方も、教師が一声かければできるが、しばらく何もしていないでいるとすっかり忘れてしまい、定着しているといえない。

2, ピア・サポート授業の実際と児童の反応

第1セッション テーマ『自己主張って何?』

「この人どんな人?」のDVD デオを見て、4人の特徴を書き出すためにプリントに載っている言葉の意味を丁寧に説明する必要があった。また、台本では、まずは本心を確認し、せりふ 声の大きさや速さ 目や体の向き・表情の順に観察したことをまとめ、最後に印象を聞いた。しかし、実際に授業をしてみると最初に印象を聞き、どうしてそう思ったのかを聞いた方が特徴はつかみやすいと感じた。

児童の感想

- ・自己主張にはいろいろな種類があることがわかった。
- ・自己主張のパターンを学び、自分がどのタイプなのか振り返るきっかけとなった。



第2セッション テーマ『言葉が大事』

上手な自己主張の言葉は何か?を前回のDVDを参考に学習したが、上映をする前に十分にどんな「言葉」つまり、セリフを言っているのかを注意させないと児童に後で聞いてもまったく覚えていない状況になってしまった。また、「主張の言葉の3つのステップ」では、つい結論を言わずに理由ばかりを長々と話すケースが多くなりがちだが、自分の主張の結論を先に話すことにより話しの内容が整理され、わかりやすいことに気づけた。

児童の感想

- ・自分と相手の考えが同じかどうか心配で、結論を先に話せるかと思ったが、練習を繰り返すうちに話し方に慣れることができた。



第3セッション テーマ『言い方はもっと大事!』

「同じ自己主張?」のDVDを見て、同じ言葉なのに印象が異なるのはなぜかを考えた。実際、第2セッションの中で、わりと自然に声の大きさや表情に気づいていた児童が多かったので、授業はスムーズに進んだ。

しかし、活動内容が多く45分で終わらせるには厳しかった。また、自分でセリフを考え練習をするのだが、プリントを見ながらだと顔が下を向いたままなので、できたらセリフを暗記して練習した方が効率がよいと感じた。

児童の感想

- ・自分の意見もしっかりと聞いてくれるので話しやすかった。
- ・同じ言葉でも声の大きさや態度、表情によってこんなにも印象が違うことがわかった。



第4セッション テーマ『めざせ！自己主張上手』

最後は、上手に自己主張の聞き方を探る学習であった。聞き方のポイントとして相手の主張を受け止めたあいづちをうつことであったが、自分の考えになかったことを素直に認めたり、相手の言葉を繰り返したりすると話し手はとても話しやすいことが実感できた。また、グループ練習では、あいづちのうち方をいろいろと考え、楽しく活動できた。このような話し合いが普段の学校生活でもできたらよいと感じた。

児童の感想

- ・相手の意見をしっかりと聞いてあげると自分の意見も聞いてくれるので、これからは聞き上手になりたいと思った。



3, ピア・サポート授業後の実践と児童の変容

- ・朝の会のスピーチで、自己主張の「言葉」のステップを取り入れた。結論から言わせ、その後に理由や事実を話させるようにしたところ、今まで話せなかった子が長めに話せるようになってきた。例えば、「とても楽しいことがありました。それは、昨日の帰りのことです。さんと歩いていると...。」というように、マニュアルにそって話すため、話しやすくなったのだと考えられる。
- ・自己主張のステップを活用した討論形式の授業を行うと、発表が活発になるだけでなく、話をよく聞くようになってきた。発表する児童が発表の最後に「さんは、どう思いますか？」というように、質問させると、より聞き方がよくなっていくことがわかる。

4, 全校での取り組み

「聞く」ということを中心にして取り組む上で、学年や学級に任せているだけでは、どうしても忙しさに負けて般化・維持活動がおろそかになりがちである。そのため、全校で活動できる工夫や、教師の意識を高めるための工夫をしてきた。

全校朝会

月の生徒指導の目標の中に「しっかりと話を聞こう」というものがある。その際、2年生の担任に劇をしてもらった。児童は興味深く劇を見ながら、明確にポイントをつかむことができた。教室に戻ってから、各クラスでも聞き方のポイントを再確認しながら指導をすることができた。



全校ビデオ放送

1年生の教師には、昼のビデオ放送で劇をしてもらった。悪い例を出した後に、ポイントを言い、よい例を出すもので、高学年も興味深く見ることもできた。

この写真のビデオは、あいさつに関するもので、気持ちのよいあいさつとはどんなものなのかが理解できるようになっている。



校内各所への掲示物

校長室前や各学年の廊下にピアで習ったことを掲示し、どの学年でどのようなことを学習しているのかがわかるようにした。

4階の会議室には、各学年のピアの学習の内容がわかるように、模造紙で掲示してある。これは、教師の研修用として使用している。



教師間での授業報告会

長期休業中に、各学年でどのようなことを指導したのかを報告しあった。ひとつの学年で5～10分程度。ピア・サポートの系統もわかり、全校での指導を一貫性のあるものにしようという意識が高まった。

報告会には、それぞれ簡単なレジュメを作って配布。



保護者への働きかけ

ピアピア新聞発行

各セッション終了ごとにピアピア新聞という児童が学んだことを伝える新聞を発行し、学習内容の伝達とともに、家庭での協力を呼びかけた。

ピア・サポートの授業を参観してもらい、牧野先生を招いての保護者研修会も行った。あまり参加率はよくないが、学校だけではなく、家庭でも同様のしつけをしてほしいという願いを伝えることができた。

他教科での実践発表

総合的な学習の時間で、討論会やグループでの話し合いをする際に、ピア・サポートのスキルを意識して学習に取り組めるようにした授業を公開した。ピア・サポートが特別なものではなく、日々の活動で当たり前に行われるものとして考えられるようにしていくために、取り組んだことである。



保護者向けピア研修会



6年:自己主張の仕方を活用した討論会

5、全校としての課題と次年度に向けての取り組み

課題1「検証の仕方」

調査研究を進める上で、検証の仕方が難しく、意識調査だけでは物足りない。児童の意識は、今後とも下がっていくことが考えられる。今までは、「うなずいている」と、自分で思っていたことが、客観的に自分を見つめ直した時、「まだできていない」と、厳しく自己評価するとも考えられるからだ。観察して、どのように変容していくかを調査する必要がある。

課題2「担任外の教師の意識」

担任を持っている場合は、ピア・サポートの授業に取り組むため、意識が高まるが、そうでない場合は、どうしても意識が薄くなりがちである。

その他

教師が意識しなければ、すぐに児童の意識も落ちていくので、これからも教師が継続して取り組めるようにしていかないといけない。

「年組のみなさん」と言うと返事ができるが、「年生のみなさん」と言っても返事ができないように、少しずつ反応の仕方を増やしていかないといけない。そして、言葉のきまりだけではなく、ピアで学んだことの意味をよく理解し、他の場面でも活用できる児童を育成していきたい。資料から「うなずきながら聞く」ということが、児童の意識から抜け落ちやすいため、うなずいて聞いている児童を称揚するなどして、うなずいて聞けるようにしていきたい。

次年度への取り組み

課題2を解決するために、担任外の教師で全校放送用のビデオを作製した。ピア・サポートで使うDVDを全て見て、台本からポイントを探し、オリジナルのビデオを作ってもらった。今後も研修の時間等を使ってビデオ作成をしていけば、教職員にとっても、児童にとってもプラスになることがあるだろうと考えている。

第1学年3組 学級活動指導案

1, テーマ なかまとなかよくする たすけあう

2, テーマについて

仲間や友達と仲良くなるためには、コミュニケーションをうまく取ることが大切である。コミュニケーションがうまく取れなければ、けんかや行き違いが起きてしまう。コミュニケーションは、人間関係の基礎である。豊かなコミュニケーションの第1段階として、1年生では、「あいさつ」と「話しの聞き方」を取り上げている。

「あいさつ」は、人と人が出会った時にする、とても大切な物である。学校生活の中でも、家庭生活の中でも、まず「朝のあいさつ」から始まる。それが、1日の流れを決めると言っても過言ではない。しかし、最近では、子どもに限らず大人でもあいさつのできない人が増えている。そこで、第1セッションでは、「おはよう」というあいさつに的をしぼり、あいさつの大切さ、どんなあいさつがよいのかを考えさせた。元気のよいあいさつをすることで、自分も相手も心地よくなることを体感させた。

第2セッションでは、あいさつの範囲を広げ、「ありがとう」や「ごめんなさい」まで取り上げていった。すると、ただ元気が良いだけでは、相手に気持ちが伝わらないので、「気持ちを込めてあいさつをする」ことが大切であることに気づかせていった。それによって、ささいなけんかを回避したり、友達とより仲良くなれたりすることを感じることができた。

第3、第4セッションでは、「話しの聞き方」について取り上げている。相手の話をきちんと聞くことは、聞いている自分にとっても話している相手にとっても大切なことである。それを、モデリングや練習を通して体感させていくことが目的である。

本学級は、35人と比較的人数が多く、落ち着きに欠ける児童も4・5人いる。しかし、絵を描いたり粘土細工をしたり、静的な活動を好む面も持っている。男子は外遊びを好む傾向がある。女子は、教室に残りたがる児童も少なくはない。

言葉遣いの悪い児童も何人かいるが、そのわりにけんかは少ない。

話の聞き方については、入学以来、「耳だけでなく、頭と心、全てを使って聞こう。」と指導してきた。しかし、人が話しているときにわりこんできてしまったり、返事ができなかつたりすることが多い。

本時は、話の聞き方の2回目である。第3セッションでは、話を聞き始める前までのポイントを押さえた。第4セッションでは、実際に相手が話をしているときの聞き方のポイントを押さえていく。

児童にとっては、「うなずく」という経験があまりなく、ポイントの中では難しいと思われる。練習を通して、「うなずくというのは、こういうことか」ということを知ることができればよいと思う。形から入っていくことになるが、この授業の後、毎日の生活の中で身につけさせていきたいと思う。また、5つのポイントを使って話を聞くことで、話しているほうも安心感を覚え、うれしくなることを感じさせていきたい。

3, 指導計画

セクション	時配	学習内容とめあて	ピア・サポートのポイント
1	1	ピア・サポートの意味を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">あいさつじょうずになろう</div> 上手なあいさつのポイントを知り、練習する。	あいてをみて じぶんから げんきよくする
2	1	ピア・サポートの意味を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">もっとあいさつじょうずになろう</div> もっとあいさつ上手になるためのポイントを知る。 気持ちをこめて、「ごめんなさい」や「ありがとう」などの	きもちをこめてする。
3	1	友達と仲良くなるためには、話の聞き方が大切であることを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ききじょうずになろう</div>	へんじをする していることをやめる あいてにからだをむける
4	0.5 1 (本時)	聞き上手になるための3つのポイントを知る。 上手な聞き方の3つのポイントを練習する。 準備プリントを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">もっとききじょうずになろう</div> 話しの聞き方のポイントを知る。 話しの聞き方を練習する。	うなずく さいごまできく

4. 本時の指導 (4.5 / 4.5)

(1) ねらい

人の話をもっとよく聞くためのポイント(うなずく さいごまできく)を理解することができる。
 上手な聞き方のポイントを使って話を聞くと、相手の話がよくわかり、また話をする側もうれしくなることを実感することができる。

(2) 展開 (1年3組 男子16名 女子19名 計35名)

時配	児童の活動	教師の支援	資料
1	ピア・サポートの意味を確認する。		「ピア・サポート」イラスト
2	上手な聞き方の3つのポイントを復習する。	教室の掲示物を使って、想起させる。	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 へんじをする 2 していることをやめる 3 あいてにからだをむける 本時のめあてをつかむ。		フラッシュカード・めあて DVD
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> もっとききじょうずになろう </div>		
	ビデオを見て、上手な話の聞き方について話し合う。	うさぎの話の聞き方に注目して見るようにさせる。	
1	1 回目のうさぎ <ul style="list-style-type: none"> ・くまのことをただじっと見ているだけだった。 ・くまの話最後まで聞かなかった。 	よくない聞き方だと、話をしているくまはどんな気持ちか考えさせる。	フラッシュカード うさぎ くま
2	2 回目のうさぎ <ul style="list-style-type: none"> ・頭を動かしながら話を聞いていた。 ・くまの話最後まで聞いていた。 	2 回目のうさぎのように話を聞いてもらおうと、くまはどんな気持ちになるか考えさせる。	
	もっと上手に話を聞くためのポイントを知る。	「うなずく」という言葉について説明する。どんなタイミングでうなずいたらいいか説明する。	フラッシュカード 聞き上手のポイント
4	うなずく		
5	さいごまできく		
	全体でうなずく練習をする。 ・モデルを見てうなずくタイミングを知る。	・話が途切れたタイミングでうなずく。 うなずいてもらおうと、話している人がどんな気持ちになるか考えさせる。 T1が話をし、T2がそれに応えてうなずく。それによって、うなずくタイミングを意識づける。 うなずく以外のポイントも忘れないように声をかける。	

<p>10</p>	<p>先生と抽出したグループでの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き上手な児童をさがすことで、ポイントを意識させる。 <p>3人組で、聞き方の練習をする。</p> <p>話す内容 「好きな動物」</p> <p>話を聞く人</p> <p>1回目・・赤帽子</p> <p>2回目・・白帽子</p> <p>3回目・・帽子なし</p> <p>まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手な聞き方の練習をした感想を発表する。 ・まとめプリントに、本時の学習のポイントを記入する。 ・振り返りプリントを書く。 	<p>T1は話をし、T2は、抽出グループの児童の補助をする。</p> <p>抽出児童とT1・T2で、やり方のモデル提示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査員は、話を聞いている人をよく見る。 ・聞き上手のポイントができているときは「すごい」、できていないところがある場合は「おいしい」の審査員棒を上げることが知らせる。 ・「おいしい」の時には、どこをどんなふうに直したらいいか話せるとよいことを知らせる。 <p>上手な聞き方をした感想だけでなく、聞いてもらった立場の感想も発表させる。それによって、上手な聞き方をすると、どちらもうれしくなったり心地よくなったりすることを実感させる。</p> <p>上手な聞き方の良さに気づいている意見を発表させ、皆に広める。</p> <p>上手な聞き方をすることで、友だちとより仲良くなっていこうという前向きな気持ちが持てるようにする。</p>	<p>審査員カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい ・おいしい <p>帽子絵カード</p> <p>赤白帽子</p> <p>準備プリント</p>
-----------	---	--	---

第2学年3組 学級活動指導案

1. テーマ なかまやともだちと なかよくたすけあう！

2. テーマについて

仲間や友だちと、仲良く助け合う関係になるためには、相手の話を聞いたり自分の思いを伝えたりすることが必要である。聞くこと・話すことのどちらが欠けても相手と上手にコミュニケーションをとることはできない。聞くこと・話すことは、ピア・サポートの目指す「思いやり共同体」になるための基礎にあたる部分である。そのため、小学校生活の基礎を育てる1, 2年生では、仲間や友だちと、仲良く助け合うために、上手な聞き方・話し方を学習している。

1年生のピア・サポートでは、挨拶の仕方と話の聞き方について学習してきた。上手な挨拶とは、自分から、相手を見ながら気持ちをこめてすることであることを、1学期に学んだ。2学期には話の聞き方について2回にわたって学習した。聞き方のポイントは、返事をし、していることをやめ、相手に体を向ける。さらに相手の話にならずきながら最後まで聞く、という5つである。

2年生では、1年生のときに学習した聞き上手の5つのポイントに加えて、あいづちをうつ、質問をするということについて学習した。

本学級は、穏やかで決まりを守って協力して物事に取り組もうとする児童が多い。外遊びも好きで、男女仲良く遊ぶことも多い。ピア・サポートで学んだ「あいさつ」や「話の聞き方」を日常生活で活かせるように、学習中やその他の場面においてもその都度学習したポイントを使って指導をしてきた。そのため、ポイントを使った言葉がけをすると、挨拶や話の聞き方を思い出し、気をつけようと思えるようになってきた。

本時は人と話をする場面全てに共通している話し方の基本を学ぶこととなる。話すことについては、国語の授業や朝の会のスピーチに取り組んできたが、ピア・サポートで話し上手の学習をするのは初めてである。まだ授業中の発表や日直の時の声が小さい児童が多いので、ちょうどよい声の大きさやちょうどよい声の大きさと話すことの大切さを知ることは、自分の話し方を振り返るよい機会になると考えられる。また、第1のポイント「相手に体を向ける」を知ることで、話すときも聞くときと同じで相手を意識して大切にすることということに気付くだろう。更に、まだ自分の話をするということ、自分の思いが中心であるので、グループ活動のときや遊びの相談をしているときなどは、相手の話を聞かずに一方的に自分だけが話をしてしまうことが多い。本時の話し上手の第3のポイント、話者交代を知ることによって、自分が話すだけではなく、相手にも話をしてもらうことで両方が嬉しい気持ちになることがわかるだろう。それによって自分だけが話すのではなく、まわりの友達の話も積極的に聞こうという気持ちが育つことと思われる。

児童にとって聞き上手になるよりも話し上手になることのほうが難しいと思われる。そのため今回はあらかじめ話す内容はメモしておき、話をする事への負担を軽減した。そうすることで話者交代の言葉を使うことに意識を集中させ、その言葉を使うとお互いに話をする事ができて嬉しい、話すことが楽しいという気持ちが持てるだろう。

この学習を通して、相手が聞き上手だからもっと話したくなった、お互いに話す方法がわかって友達と話す楽しいという気持ちを味わい、より一層子供同士のコミュニケーションが豊かになってほしいと思う。

3. 指導計画

セッション	時間配	学習内容とめあて	ピア・サポートのポイント
1	0.5 1	<p>準備プリントを書く。</p> <hr/> <p>ピア・サポートの意味と話を聞くことの大切さを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">あい手の話を上手に聞こう！</div> <p>1年生のときに学習した聞き方の5つのポイントを復習する。</p> <p>上手な聞き方の5つのポイントを練習する。</p>	<p>へんじをする</p> <p>していることをやめる</p> <p>あい手に体をむける</p> <p>うなずく</p> <p>さいごまで聞く</p>
2	0.5 1	<p>準備プリントを書く。</p> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">あい手の話をたくさん聞こう！</div> <p>相手の話をたくさん聞けるようになるためのポイントを知る。</p> <p>あいづちをうったり質問をしたりしながら聞く練習をする。</p>	<p>あいづちをうつ</p> <p>しつもんをする</p>
3	0.5 1 本 時	<p>準備プリントを書く。</p> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">話し上手になろう！</div> <p>自分の考えや気持ちを相手に伝えるために、上手な話し方の基本となる3つのポイントを知る。</p> <p>上手な話し方の3つのポイントを練習する。</p>	<p>あい手に体をむける</p> <p>ちょうどよい声の大き さで話す</p> <p>じぶんが話したら、あ い手にも話をしてもら う</p>
4	1	<p>仲間や友達と仲良くしたり，助け合ったりするために， お互いをお願いをする場面があることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おねがいのしかたをしろう！</div> <p>上手な話のポイントに加えて，人をお願いするときのポ イントを知る。</p> <p>お願いをするときのポイントを練習する。</p>	<p>あい手にひと声かける</p> <p>「～してくれる？」と 聞く</p> <p>「ありがとう」と言う</p>

4. 本時の指導 (4.5 / 5.5)

(1) ねらい

自分の考えや気持ちを相手に伝えるために、上手な話し方の基本となる3つのポイント(相手に体を向ける、ちょうどよい声の大きさで話す、自分が話したら、相手にも話をしてもらう)を理解することができる。

上手な話し方のポイントを使って話すと、仲間や友だちと、仲良く助け合うことになることを実感することができる。

(2) 展開 (2年3組 男子12名 女子16名 計28名)

時配	児童の活動	教師の支援	資料
1	ピア・サポートの意味を確認する。		「ピア・サポート」イラスト
3	上手な話の聞き方の7つのポイントを復習する。 1. へんじをする。 2. していることをやめる。 3. あい手に体をむける。 4. うなずく。 5. さいごまで聞く。 6. あいづちをうつ。 7. しつもんする。	教室のピアコーナーの掲示物を使って想起させる。	第2セッションまとめ (上手な聞き方7ポイント)
1	本時のめあてをつかむ。	話し上手になろう!	フラッシュカード・めあて
5	ビデオを見て、よい話し方とよくない話し方について話し合う。 1回目のくま ・うさぎを見てなかった。 ・声が小さかったり大きかったりした。 ・自分ばかり話していた。 ・話し終わったらいなくなった。 2回目のくま ・うさぎを見て話していた。 ・ちょうどよい声の大きさだった。 ・「うさぎさんは?」と言って、うさぎにも話をさせてあげていた。	話し方の学習なので、くまに注目して見るようにさせる。 くまがよくない話し方をすると、聞いているうさぎはどんな気持ちがするかを考えさせる。 くまがよい話し方をすると、聞いているうさぎはどんな気持ちがするか考えさせる。	DVD フラッシュカード・うさぎ、くま

5	<p>上手な話し方のポイントを知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1. あい手に体をむける。</p> <p>2. ちょうどよい声の大きさと話す。</p> <p>3. 自分が話したら、あい手にも話をしてもらう。</p> </div>	<p>3つ目のポイントについてT 2とモデル提示をする。</p> <p>1回目 話者交代がないモデル</p> <p>2回目 話者交代があるモデル</p> <p>話者交代（バトンタッチのことば）を明確にする。</p>	<p>フラッシュカード・話し上手のポイント</p>
20	<p>話し方の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルを見てやり方を知る。 <p>* 1回目（隣同士）</p> <p>はじめに話す人 好きな勉強</p> <p>次に話す人 好きな動物</p> <p>* 2回目（ペアを代える）</p> <p>はじめに話す人 好きな勉強</p> <p>次に話す人 好きな動物</p>	<p>T 2とモデル提示をし、バトンタッチのことばを意識づける。</p> <p>以下の点について確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手が上手にできていた部分に をつけること、×や はつけない。 質問はしない。 全て話し終わってから記入する。 <p>聞き上手のポイントも忘れないように声をかける。</p> <p>バトンタッチのことばが使えたかや交代で話したときの気持ちなどを聞いて、認めたり共感したりする。</p> <p>ペアができないところがあれば入る。</p>	<p>チェックシート</p> <p>「上手に話せたかな？」</p> <p>フラッシュカード</p> <p>「～さんの好きな勉強はなに？」</p> <p>「～さんの好きな動物はなに？」</p> <p>スピーチメモ</p>
10	<p>まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上手な話し方の練習をした感想を発表する。 まとめプリントに本時の学習のポイントを記入する。 振り返りプリントを書く。 	<p>3つのポイントを使って話したり話をされたりしたときの、うれしさや心地よさが感じられるような意見をとりあげる。</p> <p>話者交代のよさに気付いている児童の発言をとりあげ、全体に広めるようにする。</p> <p>上手な話し方を今後の生活に活かしていくと、仲間や友だちと仲良く助け合うことができるようになるという前向きな気持ちをもてるようなまとめ方をする。</p>	<p>まとめプリント</p> <p>振り返りプリント</p>

		<p>2 .気持ちに関する3つの事実を知る。</p> <p>3 . 気持ちを表す言葉を知る。</p>	<p>気持ちは人の体の中でおこる。</p> <p>本当の気持ちは本人にしかわからない。</p> <p>気持ちをあらわす言葉はたくさんある。</p>
般化維持活動	1	1 . 気持ちを表す言葉を探す。	
	2	<p>1</p> <p>体のへんかを見て、人の気持ちを考えよう！</p> <p>1 . 気持ちの変化に伴って体にも変化が起こることを理解する。</p> <p>2 . 気持ちのサインを読み取って、言葉で表す練習をする。</p>	<p>気持ちが動くと体にも変化が起こる。</p>
般化維持活動	1	1 . 気持ちのサインを読み取って、言葉で表す練習をする。	
	3	<p>1</p> <p>気持ちをわかり合うために大切なことをしろう！</p> <p>1 . 人の気持ちをわかり合うために大切な2つのポイントを理解する。</p> <p>2 . 自分の気持ちは体の動きや表情などの体の変化で伝えられてしまうが、それとあわせて言葉も使って伝えの方がより正確に伝わること、すなわち、言葉の重要性を理解する。</p>	<p>人の気持ちは体の変化でわかる。</p> <p>人の気持ちは、気持ちを表す言葉でもっとわかる。</p>
般化維持活動	1	1 . 気持ちを体の変化と気持ちを表す言葉から読み取る練習をする。	
	4	<p>1</p> <p>自分の気持ちをつたえよう！</p> <p>1 . 自分の気持ちを言葉と体の変化で伝える時の3ステップを知り、練習する。</p> <p>2 . ちょっとしたことでも、気持ちは言葉で伝えの方がよい場面がたくさんあることに気づく。</p>	<p>相手に体を向ける。</p> <p>ちょうどよい声の大きさを言う。</p> <p>気持ちを表す言葉を相手に伝えるように言う。</p>
般化維持活動	0.5	<p>1 . 「ありがとう」と言った場面について考える。</p> <p>帰りの会</p> <p>1 . 「今日のありがとう」で1日を振り返り「ありがとう」と言った場面について考える。</p>	

般化維持活動	0.5 (本 時)	<p>1. 「ありがとう」と言った場面について考える。</p> <p>2. 日常生活の中にちょっとしたことでも、その場ですぐに「ありがとう(感謝)」の気持ちを言葉で伝えた方がよい場面がたくさんあることに気づく。</p>	<p>相手に体を向ける。</p> <p>ちょうどよい声の大きさで言う。</p> <p>気持ちを表す言葉を相手に伝わるように言う。</p>
--------	-------------------------	---	--

4. 本時の活動(8.5/8.5)

(1) ねらい

- ・「ありがとう」を言う場面は、生活の中にたくさんあることに気づき、進んで使おうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

時配	児童の活動	教師の支援	資料
1	<p>前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年のピアの目標 「いろいろな気持ちがわかるようになろう。」 ・気持ちの伝え方の3つのポイント <p>「相手に体を向ける。」</p> <p>「ちょうどよい声の大きさで言う。」</p> <p>「気持ちを表す言葉を相手に伝わるように言う。」</p> <p>本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">「ありがとう」の気持ちをつたえよう。</div>	<p>掲示物を用意し、目標や前時の活動のポイントを振り返りやすくする。</p>	掲示物
5	<p>チャレンジプリントを見て、だれにどんなときにありがとうを言ったのか、グループの中で発表し合う。</p>	<p>友達の発表を聞くことで、「ありがとう」をいう場面は、いろいろあることに気づけるようにする。</p> <p>発表する内容を、決めておくように声をかける。</p>	チャレンジプリント
8	<p>どんな場面で「ありがとう」をいったのか全体で発表し合う。 (グループの中で、発表し合ったことから2つ選んで発表する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が 貸してくれたとき ・友達が 保健室に連れて行ってくれたとき ・友達が 困っているときに助けてくれたときに ・兄が 宿題を教えてくれたとき ・お母さんが ごはんを作ってくれ 	<p>「 さんが～してくれたときありがとうございました。」と発表することを確認する。</p>	

<p>10</p> <p>1</p>	<p>たとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が「大丈夫？」と心配してくれたとき ・友達が「頑張れ！」と応援してくれたとき ・友達が「上手だね。」とほめてくれたとき <p>場面を設定し、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体練習 <p>教師 「みなさん。」</p> <p>児童 「はい。」</p> <p>教師 「日直の仕事頑張ってるね。」</p> <p>児童 「ありがとうございます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の人と <p>A子 「さん。」</p> <p>B男 「なあに。」</p> <p>A子 「日直の仕事頑張ってるね。」</p> <p>B男 「ありがとう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列でローテーションして <p>A子 「さん。」</p> <p>B男 「なあに。」</p> <p>A子 「その絵、上手だね。」</p> <p>B男 「ありがとう。」</p> <p>本時のまとめをする。</p>	<p>友達の声かけに対しても「ありがとう」と言えることを確認する。</p> <p>友達の声かけに対する「ありがとう」を練習することを確認する。</p> <p>気持ちの伝え方3つのポイントを意識して練習させ、気持ちがいちちゃんと相手に伝わるようにする。</p> <p>伝えられた人は、OKカードを示し、気持ちがい伝わったか確認し合えるようにする。</p> <p>「ありがとう」と言われた方も温かい心になること、お互いを大切にすることになることに気づかせる。</p> <p>「ありがとう」は、思ったときにすぐに伝えることが大切だということに気づかせる。</p>	<p>OKカード</p>
--------------------	---	--	--------------

(3) 評価

- ・「ありがとう」を言う場面は、生活の中にたくさんあることに気づき、進んで使おうとする気持ちを持つことができたか。

第4学年2組 総合的な学習の時間活動案

1. テーマ

【感情】：お互いの感情について考え、よい人間関係を作ろう！

2. テーマについて

「お互いの感情について考え、よい人間関係を作ろう！」という本テーマは、3年生の第1、第2セッションを踏まえての学習である。3年生で「気持ち」と呼んでいた言葉を「感情」と言いかえて学習する。第1セッションでは、内容的には3年生と同じことをより深めていく形となっている。

	3年生学習ポイント		4年生学習ポイント
第1セッション	気持ちは人の体の中で起こる。 本当の気持ちは本人にしか分からない 気持ちを表す言葉はたくさんある。	第1セッション	感情は、何か出来事が起きた時、人の体の内側でおこる。 本当の感情は本人にしかわからない。 感情を表す言葉、感情語はたくさんある。 感情が動くと、体にも変化がおこる。
第2セッション	気持ちが動くと体にも変化がおこる。		

本学級の児童は、人に対して友好的な態度で接する。友達とのめめ事は少ない。しかしながら、互いの感情を出し合っているかということ、そうでもない。不和雷同型、黙って相手に合わせている児童も多く見られる。また、感情についての細かな感覚はまだ育っていない。

本時は、第1セッションの学習内容の般化維持活動である。授業で得た知識を元に、想定場面について相手の感情を読み取り、感情語を考え、実際に話してみる活動を行う。

相手の感情を考えることで、感情への感覚を磨き、意識を高めていきたい。また、相手の感情を読み取って言葉で伝えと、よい人間関係づくりができることを、役割演技を通しての疑似体験で気付かせていきたい。そして、普段の生活場面でもやってみようという意欲を持たせていきたい。

3. 活動計画（8.5時間扱い）

セッション	時配	学習内容とめあて	ピア・サポートのポイント
予告	0.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感情はどこで起こるか考える。 2. 感情は誰がわかるか考える。 3. 感情を表す言葉を感情語ということ、たくさんあることを知る。 4. 感情が動くと体がどうなるか考える。 	感情を表す言葉を感情語といい、感情語はたくさんある。
1	1.5	授業 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">感情語と感情のサインをつかまえよう！</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピア・サポートの意味、4年生の授業で学習することを知る。 2. 感情に関する4つの事実を知る。（3年次の復習にあたる） 3. 感情語の語いを増やす。 4. 感情のサインを見つけ、感情語で表す。 	4年ピアの目標 おたがいの感情について考え、よい人間関係を作ろう！ 感情は、何か出来事が起きた時、人の体の内側でおこる。 本当の感情は本人にしかわからない。 感情を表す言葉、感情語はたくさんある 感情が動くと、体にも変化がおこる。

	宿題 1(本時) 0.5 宿題	般化 維持 活動	<ul style="list-style-type: none"> 1. 感情語を探す。 2. 感情を読み取り、言葉にする。 3. 感情語を考える。 4. 感情のサインを探す。 	
2	1	授業	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感情って複雑！</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 感情の知識について2つのポイント(同時に二つ以上の種類や強さの違う感情をもつことがある。同じ場面においても、人や立場によって感情が違うことがある。)ことを学ぶ。 2. 立場の違う人の感情を、それぞれの立場に立って考える練習をする。 	同時に二つ以上の、種類や強さのちがう感情を持つことがある。同じ場面においても、人や立場によって感情がちがうことがある。
	0.5	般化 維持 活動	<ul style="list-style-type: none"> 1. 想定場面について、立場の違う両者の感情を考える。 	
3	1	授業	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">落ち着け！感情！</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 強すぎる感情がおきた時、感情を落ち着かせる方法があることを学ぶ。 2. 強くなりすぎた感情を持っている友達を落ち着かせる練習をする。 	<p>強くなりすぎた感情を落ち着かせる方法</p> <p>ステップ1. そばに行き、「どうしたの？」とやさしく声をかける。</p> <p>ステップ2. 友達の話聞く。</p> <p>ステップ3. いっしょに深呼吸する。</p> <p>ステップ4. それでも落ち着かなかったら、ほかの方法を提案する。</p> <p>ゆっくり数を数える。</p> <p>そのまま行動し続けていたら、どんな結果がおこるか予想する。</p> <p>感情を落ち着かせる言葉を、自分に言ってみる。</p>
	宿題 宿題 0.5	般化 維持 活動	<ul style="list-style-type: none"> 1. 普段の生活で、強い感情を落ち着かせる実践をする。 2. 普段の生活で、強い感情を落ち着かせている人を見つける。 3. 自分に合う感情の落ち着かせ方を考える。 	
4	1	授業	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伝え合おう！この感情！！</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. よい人間関係を作るために、お互いの感情を言葉で伝え合う必要があることを学ぶ。 2. 周りも自分も大切にしたい感情の伝え方のステップ(1. 言葉で考える。2. 相手を見て、ちょうどよい大きさの声で話す。3. 相手にも感情と理由を聞く。)を学ぶ。 3. 周りの人も自分も大切にしたい感情の伝え方を練習する。 	<p>周りも自分も大切にしたい感情の伝え方</p> <p>ステップ1. 感情語を選ぶ。</p> <p>(1) 感情語を選ぶ。</p> <p>(2) 感情語の理由を考える。</p> <p>ステップ2. 相手を見て、ちょうどよい声の大きさと話す。</p> <p>ステップ3. 相手にも感情と理由を聞く。</p> <p>バトンタッチの言葉を使う。</p>
	0.5 0.5	般化 維持 活動	<ul style="list-style-type: none"> 1. 想定した場面についての感情を伝え合う。 2. 今の自分の感情を伝える。 	

	<p>涙を流している友達にかける言葉 「どうしたの？なんだか <input type="text"/>。」 悲しそうだね。 つらそうだね。 寂しそうだね。</p>		
10	<p>班内で発表し合う。 ・各自の答えを発表し合う。 2人組を作り、役割演技をしながら、発表する。</p>	<p>役割演技をする二人を起立させ、その時の様子や両者の感情をとらえやすくする。 役割演技をしてみた感想を両者に聞いたり、周りで見ているどう感じたかを聞いたりして、活動のねらいに近づかせていく。</p>	
4	<p>本時の学習のまとめをする。 感想を書く。 ・相手の感情を考えるのが難しかった。 ・相手の感情を言葉にしてみたら、優しい気持ちになった。 ・感情を考えて言ってもらうと、嬉しかった。 ・これからも感情語を使って、友達と仲良くしていきたい。</p>	<p>書けない児童には、演技した時の感情を思い出させる。</p>	
5	<p>感想を発表する。</p>	<p>感情を読み取る側と読み取られる側の感じ方を分けて整理する。その後、両者の関係に気付かせていく。 相手の感情を読み取って話すことで、人間関係がよりよくなることをまとめとする。</p>	笑顔マーク2個

第5学年1組 総合的な学習の時間活動案

1. テーマ

世界の食めぐりをしよう

2. テーマについて

自身の食生活や日本の食文化に対する興味関心が低く、これまで児童は、食について考える機会はありませんでした。しかし、1学期の社会科の「わたしたちの生活と食料生産」の学習を通して、日本の食料生産の現状について関心を持つ児童が増えてきている。そこで、日本だけでなく、外国の食について興味を広げて、食文化について考えさせていきたい。また、調べたことを皆に伝えたいという思いを持ち発表する活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図ることができると考え、本テーマを設定した。

まず、ALT との出会いから外国の食文化についての興味関心を持たせ、自分の調べてみたい国の食文化についてインタビューやインターネットなどを通して調べ学習をする。そして、グループを編成して、グループごとに調べたことを報告し合い、クラスで発表する方法を考えさせたり、資料を作ったりしながら協力し合って学習する場を設けていきたい。

本学級の児童は、自分の考えを積極的に発表できる児童が少なく、授業中に発言する児童は決まってしまう。また、発言をするためには、相手の話を聞くことが重要であるが、聞くという行動そのものが苦手で、ピア・サポートの1・2年生の学習である「聞き方のポイント」を意識させながら学習している。そこで、本学習では、一人一人が調べ学習をしっかり行い、調べたことを報告したり、話し合ったりする活動を通してコミュニケーション能力を育てていきたい。

(ピア・サポートとの関連)

ピア・サポートで、本時までには、3年生から5年生までのスキルを学んでいる。5年生のピア・サポートの目標は、「問題にじっくり取り組めるようになるう！」であり、問題解決の方法として4つのステップとそれぞれのポイントを学習してきた。また、本校の今年度の般化維持として、聞くことを中心に取り組んでいる。

本時では、「問題解決のステップ」が、調べたことの発表方法を決めていくという問題場面で活用できるようにさせる。また、コミュニケーション能力を生かす場面として、相手の意見を聞くスキルを重視できるようにしたい。

3. テーマのねらい

・食文化について、自ら課題を持つことができる。

(課題設定の能力)

・食文化について、進んで調べ活動をすることができる。

(自力解決の能力)

・インタビューや話し合い活動や発表によって、コミュニケーション能力の育成を図る。

(コミュニケーション能力)

・自分が調べたことをもとにして、日本の食文化や自分の食生活について考えることができる。

(自己の生き方を考える力)

4. 活動計画 (16.5時間扱い)

流れ	時配	活動内容	教師の支援	ピア関連	総合の力
ふれる	1	1. ALT との出会いから外国の食文化について興味関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ALT との打ち合わせで、外国の食文化についての話題にも触れていただくよう話をしておく。 話の聞き方や質問の仕方を考えさせる。 	聞き方のポイント	課題設定
調べる	6	世界の食文化について調べよう。		聞き方のポイント	課題設定 問題解決
		2. 自分の調べたい国の食文化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> インターネット 本 インタビュー 3. 調べたことを報告するための練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 調べる内容や方法が決定できない児童には助言する。 インタビューの仕方を相手の立場に立って考えさせる。 相手に分かりやすく伝わる話し方を工夫するように助言する。 		
調べる	1 (本時)	発表の準備をしよう。		聞き方のポイント	コミュニケーション能力 問題解決の4つのステップ
	6	4. グループで、調べたことを報告し合い、それらをまとめてクラス全体で発表する方法を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方や質問の仕方を考えさせる。 相手に分かりやすく伝える方法を考えさせる。 ピア・サポートで学んだ問題解決の4つのステップを活用するよう助言する。 相手に伝えるためには、分かりやすい資料を用いることや発表方法を工夫することの必要性に気づかせる。 		
	6	5. 調べたことをまとめて、発表用の資料を作り、発表の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 資料は分かりやすく、また聞き手が興味を持てるような工夫をするよう支援する。 上手に練習できない児童に発表の仕方を助言する。 		

ま と め る	1	6. 世界の食文化について、発表し合う。	・話の聞き方のポイントを意識しながら聞くよう助言する。 ・伝えたい内容が分かりやすく発表できているか評価できるようにする。	聞き方のポイント	コミュニケーション能力
	1	7. 伝えたい相手に、発表をする。			
深 め る	0.5	8. 学習を振り返って、感想を書く。	・活動計画表や今までに記録した活動カードを使って、本学習の活動を振り返ることができるようにする。		自己の生き方を考える力

5. 本時の活動 (8 / 16 . 5)

(1) ねらい

- ・友達の報告を聞いたり、話し合いをしたりする際に相手の言いたいことを理解しようとして聞くことができる。
- ・グループで、発表の方法を考え、話し合うことができる。

(2) ピア・サポートとの関わり

- ・友達の報告を聞いたり、話し合いをしたりする際に、2年生までに学ぶ「聞き方のポイント」を活用して聞くように助言する。
- ・発表する方法を決定するためにピア・サポートで学んだ「問題解決の4つのポイント」にそって進めるようにする。

(3) 展開

時配	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援	資 料
2	本時の活動について知る。	活動計画表で本時の活動内容を確認する。	活動計画表
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 調べた国の食文化について報告し合い、発表方法を考えよう。 </div>		
3	話の仕方や聞き方を確認する。	調べたことを相手に伝わるように分かりやすく話をしよう助言する。(速さ、目線など)	

		ピア・サポートで学んだ「聞き方のポイント」を確認する。 話の聞き方や質問の仕方を考えさせる。	「聞き方のポイント」の資料
1 5	各自，発表したことをグループで報告し合う。	聞き方のポイントを意識して聞くように助言する。	調べた資料
8	発表の仕方を考えるに当たって，ピア・サポートで学んだ問題解決のステップを確認する。 (ステップ2のコツ) ・はじめから ×をつけない。 ・聞き手の立場に立って考える。 (ステップ3のコツ) ・よい結果，よくない結果を予想する。	相手に分かりやすく伝えるには，分かりやすい資料を作成することの必要性に気づかせる。 活動内容を「問題解決の4つのステップ」に当てはめて確認させる。 ・これからの活動を言葉で提示する。 「調べたことをクラスみんなに分かりやすく伝えるにはどうすればよいだろうか。」 (ステップ1) ・「発表方法をできるだけたくさん考える。」 (ステップ2) ・「考えた解決方法で発表したら相手に分かりやすく伝わるか予想する。」 (ステップ3) ・「いくつか考えた方法をくらべて，1番相手に分かりやすい発表方法を選ぶようにする。」 (ステップ4)	「問題解決の4つのステップ」の資料 本時の活動内容に当てはめた4つのステップの掲示物
1 5	グループで発表方法を話し合う。 ・新聞 ・劇 ・ビデオ ・本 ・紙芝居 ・かるた ・ペープサート ・実物投影機	発表を聞かせる相手のことを考えて，分かりやすく伝える方法を考えさせる。 話し合いのヒントになるような道具などを用意しておく。 話の聞き方に注意して話し合うようにさせる。	発表方法を考えるためにヒントとなるもの
2	本時の学習を振り返り，次時の学習を知る。	本時を振り返って，相手の言いたいことを理解しようとして聞いたり，発表方法を考えたりすることができたかを反省できるように助言をする。	振り返りカード

- ・ 友達の報告を聞いたり，話し合いをしたりする際に相手の言いたいことを理解しようとして聞くことができたか。
- ・ グループで，発表の方法を考え，話し合うことができたか。

第6学年2組 総合的な学習の時間活動案

1. テーマ

将来のわたし

2. テーマについて

結婚や就職ということに対して抵抗がある児童が多い。また、定職に就きたくないという社会人が増えているという社会現象も踏まえ、本テーマを設定した。

国語科の「美月の夢」という題材から、「将来の夢」や「大人になること」について考えさせる。まず大人になることとは何かを身近なことから考えさせ、どんな大人になっているかを想像させたり、どんな大人になりたいかという希望を持たせたりする。結婚して家庭を持つこと。就職して定職に就くこと。外見や内面の変化。そういったことについて思いを膨らませられるようにする。そういった学習過程の中で自分が大人になるのだという実感を持ち、自分のこととして考えられるよう支援する。

次に、身近な大人へのインタビューを通して調べたことを話し合わせる。そして、大人になるメリットやデメリットも考えながら、具体的な将来の構想が持てるようにしていく。

最後に、仕事について調べさせることになる。どのような仕事があり、自分がどのような仕事に就きたいかを考えさせる。インターネットやインタビューによって、仕事の大変さだけではなく、やりがいについて追求できるように支援し、どの仕事にも楽しさややりがいがあるのだということが理解できるようにしていく。

(ピア・サポートとの関連)

ピア・サポートで、本時まで、6年間の全てのスキルを学んでいる。本学習では、コミュニケーション能力を生かす場面が多い。そのため、聞くこと・話すことのスキルを重視していくことになる。6年生で学んだ「上手な自己主張の仕方」や「相手を大切に作る聞き方」がインタビューや話し合い活動で十分活用できるようにしたい。

3. テーマのねらい

- ・ 社会生活や職業の種類について自ら課題を持つことができる。

(課題設定の能力)

- ・ 社会生活や職業の種類について、進んで調べ活動を行うことができる。

(自力解決の能力)

- ・ インタビューや話し合い活動によって、コミュニケーション能力の育成を図る。

(コミュニケーション能力)

- ・ 自分の調べたことをもとにして、将来への希望と仕事へのやりがいについて考えることができる。

(生き方)

4 . 活動計画

流れ	時配	活動内容	教師の支援	ピア関連	総合の力
ふれられる	1	1 . 国語教材「美月の夢」から、将来の夢や大人になることについて考える。	・将来の夢ということを単純に仕事だけとせず、見たい物や行きたい場所もよしとする。	話す・聞く	課題設定
	1.5	ど ん な 大 人 に ？		話の聞き方7つのポイントに重点	課題設定
		1 . 大人ということからイメージすることを話し合う。 2 . 仕事にはどんなものがあるかを話し合う。	・特に制限をせず、自由にイメージを話し合えるようにする。 ・自分になりたい職業や、やってみてもいい職業について話し合うことによって、身近なこととして考えさせる。		
調べる(パート1)	3	大 人 っ て な ん だ ろ う ？		相手を大切にしたい聞き方 相槌に重点	課題設定 自力解決とコミュニケーション
		1 . 自分がどんな大人になりたいか、自分がどんな大人になっているのかを予想する。 2 . 身近な大人にインタビューをする。	・将来の希望や予想を考えることによって、自分自身の問題として考えられるように支援する。 ・相手の立場に立った質問の仕方を考えさせる。		
まとめる	1 (本時)	1 . インタビューをもとにして、早く大人になりたいかそうではないかの立場を明確にして話し合う。	・調べてきたことをもとにして自分の考えを 主張 し、考えの違う相手の話を聞きながら、大人になるというイメージを膨らませられるようにする。	上手な自己主張	コミュニケーション
調べる(パート2)	仕 事 っ て な ん だ ろ う ？			聞き方	自力解決とコミュニケーション
	1.5 1 3 3	1 . 様々な職業に興味を持つ。 2 . ゲストティーチャーへの質問から、各職業のやりがいを見出す。 3 . 自分の調べたい職業についてインターネットや本やインタビューにより、詳しい知識を得る。 4 . 発表用の資料をまとめる。			

まとめる (パート2)	1	1.自分の調べた職業について、発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容がわかりやすくなっているかを評価できるようにする。 ・調べた内容だけでなく、調べてきた過程についても振り返れるようにする。 	上手な自己主張	コミュニケーション
広げる	1	1.学習してきたことを振り返り、学習の成果を自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の様子がわかる写真や、今まで書いた振り返りカードを使って、本学習活動を振り返れるようにする。 	話し方・聞き方	生き方とコミュニケーション
	1	2.保護者を招いての学習発表会を開き、将来への希望を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの発表会を開けるようにし、将来への見通しを持たせる。 		

5. 本時の活動(6.5/18)

(1) ねらい

- ・調べてきた内容を生かして、自分の考えを相手にわかりやすく話すことができる。
- ・友達の話を聞く際、相手の言いたいことを理解しようとして聞くことができる。

(2) ピア・サポートとのかかわり

- ・ピア・サポートで学んだ上手な自己主張の仕方が十分に生かせるようにする。
- ・相手に自分の考えを伝えるために、まず結論、次にその理由を述べ、最後に相手にも聞くこと。そして、聞き手は2年生までに学ぶ7つのポイントを活用し、さらに6年生で学んだあいづちの仕方も取り入れられるように助言する。

(3) 展開

時配	児童の活動	教師の支援	資料
2	本時の活動について知る。	事前にアンケートをした内容や発表用のカードの確認をする。	・発表用カード
大人になると得が多い? それとも損が多い?			
3	話し合いのルールを知る。	ピア・サポートで学んだ自己主張の仕方を活用し、結論を先に言ってから理由が言えるようにする。また、意見の違う友達の発言も認められるようにする。	・拡大カード ・話し方のテキスト
5	個人で練習する。	事前に伝える内容をメモしておいた発表用カードを見ながら、話し方のテキストに当てはめるようにして話す練習ができるようにする。 上手に練習できない児童には、教師が	

8	グループで紹介しあう。	<p>ついて一緒に考えながら、話せるようにする。</p> <p>書いてあることをただ読むだけではなく、自分の言葉となるように、できるだけテキストを見ないで話せるように助言する。</p> <p><u>上手な自己主張の仕方を使って、結論、理由、相手に聞くという順番で話せるようにする。</u></p> <p><u>聞き方は7つのポイントと6年生で学んだ相槌を使って聞けるようにする。</u></p> <p>聞き手は、話し手の持っているカードに評価を書いてあげ、話し手のことを認めることができるようにする。</p>	<p>・自己主張の仕方と聞き方の掲示物</p> <p>・カード</p>
20	<p>全体で話し合う。</p> <p>1, カテゴリごとの意見発表 仕事 家庭 その他(自由と義務)</p>	<p>カテゴリごとに意見を主張しあい、それぞれの考え方を交換し合えるよう、対立意見で向き合うような座席を作る。</p> <p>全体に向けての話し方と聞き手の姿勢を確認してから発表ができるように助言する。</p>	
2	2, 質疑・意見交換 シェアリング。	<p>友達の調べてきたことや考え方を聞いて、参考になったり、自分の考えが膨らんだことを話せるように支援する。</p>	
5	本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。	<p>本時を振り返って、相手にわかりやすく話したり、相手の言いたいことを理解しようとして聞いたりできたかを反省できるように助言する。</p>	<p>・振り返りカード</p>

- ・調べてきた内容を生かして、自分の考えを相手にわかりやすく話すことができたか。
- ・友達の話を聞く際、相手の言いたいことを理解しようとして聞くことができたか。